

2022年(令和4年)8月23日 火曜日 神戸新聞

(第3種郵便物認可)

浜坂県民サンビーチは約100軒の露店や多くの見物客でにぎわった=新温泉町芦屋



花火大会 協賛金2倍の企業も



①御流所の前で踊り出す神とみこし=新温泉町芦屋
②宵宮の夕方、京一屋台を引く子どもたち=新温泉町浜坂



3年ぶり戻った活気

心意気 — 浜坂「川下祭り」

浜坂の心意気は示せた

「浜坂のみきん、川下祭り」が3年ぶりに帰ってきました。

7月16日の夕方、新温泉町の玄関口である川下浜坂駅の商店街で、高揚感に満ちた声で響いた。開幕を告げるアナウンスに、沿道の人々は大きな拍手や歓声で応えた。

但馬三大祭りの一つに数えられ、江戸時代中期を起源とする祭礼は、新型コロナウイルス感染症防止のため、一昨年と昨年は中止を余儀なくされた。長い歴史の中、2年分の空白を埋めたのは、戦後初めてだ。

「みんなが期待していた。地元の心意気は示せた」

川下祭りは、スサノオ、ミコトなどを祭神とする。都野神社(同町浜坂)の大祭で、初日の宵宮(16日)から、2日目の宵宮(17日)まで、約15日に開かれ、約5万人が訪れる。今年も同様に構成される。今年も同様に構成される。今年も同様に構成される。

川下祭りは、スサノオ、ミコトなどを祭神とする。都野神社(同町浜坂)の大祭で、初日の宵宮(16日)から、2日目の宵宮(17日)まで、約15日に開かれ、約5万人が訪れる。今年も同様に構成される。今年も同様に構成される。

川下祭りは、スサノオ、ミコトなどを祭神とする。都野神社(同町浜坂)の大祭で、初日の宵宮(16日)から、2日目の宵宮(17日)まで、約15日に開かれ、約5万人が訪れる。今年も同様に構成される。今年も同様に構成される。

実録 たしまの祭り 2022

— コロナ禍3年目の夏

0001

地域内を1軒ごとを原獅子舞の「門付け」。無事震災を乗り越え、事ほむそかな空気が流れる。新温泉町浜坂



夜を明かす「御旅所」が砂浜に設けられ、行く手を阻もうとする神とみこしが激しくぶつかり合った。最終日は、御旅所の神が神社に戻る御祭。午後7時の宮入りで3日間の幕を閉じた。

隣接する馬取町では7月に入り、新規感染者が過去最多を更新する日も続いていた。氏子総代の面部長一さん(75)は「個々の急拡大は1月下旬以降。祭りの感染防止策を講じつつ、綱渡りのような状況だったかも」と振り返る。

ワイルスの猛威と背中を合わせながら、コロナ前と同じ仕度で開いたのは、まちの活力をこれ以上失いたくないとの思いがある。

同町の人口は、合併で発足した2005年から人口減に歯止めがかからず、コロナ禍にあつて観光客は減少し、不油に伴う高値でスワイゴの地元消費が落ち込むなど閉塞感が色濃い。

岡部さんは「地域の安寧を願う心静かな祈り、地域の活力をもたらすみこしの荒々しさ。そこに祭りの人々の風通い、誇りが感じられることが祭りの醍醐味」と強調。「何とかならずやり切れた」と、安心の表情を見せた。(末吉佳希)

「コロナ禍からの年目。但馬地域の一部で夏が戻ってきた。完全復活させる一万、規模を縮小したり、新たな形を模索したりと主催者は試行錯誤してきた。「地域に活力を」。祭りを支える人たちの夏を造った。